

午後 3時45分 再開

○議長（石川交三君） 再開いたします。

次に、6番荒川滋議員の発言を許します。6番荒川議員

○6番（荒川滋君） 本日6人目ということで大変お疲れと思いますが、ラスト1時間お付き合いを願います。

長きにわたりまして町の発展と町民福祉のためにご尽力していただきまして、このたび退職される7名の方々、本当にありがとうございました。皆様の豊富な知識と経験をこれからも町のためにお力添えいただけますようお願いいたします。お疲れ様でした。

ロシアによるウクライナ侵攻から1年、そしてトルコとシリアで発生した大地震から1か月、日々伝えられる惨状に心が痛む思いであります。あと4日で東日本大震災から12年となります。宮城県気仙沼市からここ五城目に嫁いできた私の妻の家は跡形もなく流されてしまい、向こうの姪っ子と甥っ子を3人をこちらでしばらくの間お預かりしたということがありましたが、当時高校生、中学生、小学生であったあの子どもたちは、今はもうすっかり一人前になり、12年間という月日の長さ、ついこの間のようだったなというそういう思いが交錯しております。2月のある日、森山二高地手前の坂道の左側の雪面に「世界平和」という文字が大きく描かれておりました。登山者がストックを筆にして書いたものと思われませんが、まさにそのとおりで、平穏な世の中に戻ることを心から願うところであります。

それでは、質問に入ります。

1月10日の新聞記事に、20代、30代の子育て世代の移住についての共同通信アンケートで、その理由として子育て環境の評価が非常に多いという結果だったということが掲載されておりました。少子化、これは本町において非常に大きなテーマであります。本町だけではなく全国的な課題で、先ほどからありますが、昨年の出生数は123年前に統計開始以来初めて、ついに80万人を下回りました。来月にはこども家庭庁がスタートし、政府は異次元の少子化対策を打ち出し、全国の多くの自治体では子育て支援に重点を置いた新年度予算を組み、今後こぞって子育て世代の誘致合戦が繰り広げられることとなります。

本町では、これまでのものに加え、このたび始まりました妊娠届出時と産後にそれぞれ5万円ずつ、合わせて10万円支給の出産子育て応援給付金や、今後始まる給食費の実質無償化など、切れ目のない充実した子育て支援メニューが展開されております。こ

のことは誇れることだと考えております。そうなのですが、町の将来のために欠かすことのできない将来を担う若い世代や子育て世代に、ここ五城目町を選んでいただけるよう、あと一押しが必要ではないかと考えます。

参考にしたい3つの町の取り組みを紹介しますので、少しお聞きください。

1つ目、先ほどもありましたが、岡山県奈義町というところであります。ここは鳥取県との県境にあり、人口5,700人の町です。令和4年度の一般会計当初予算が60億円あまりで、本町の55億と近いものがあります。2002年、平成の大合併のさなか、単独立町を選択するも、その後急激な少子化が進行、この点も本町と似ております。で、危機感を感じた奈義町は、子どもの数が減っていった要因の一つとして、子育てにかかる経済的負担が大きいと考え、支援を充実させることにしました。それまでも子育て支援策はあったんですけども、今住んでいる町民だけでは出生率向上に限界がある。若い世代の移住者を増やさなければならない。それも思い切った子育て支援が必要だということで、奈義町は2012年に子育て応援宣言をしており、毎年1億円以上投じて手厚い子育て支援を展開してきております。その結果、2019年の合計特殊出生率は全国平均の約2倍、これはもう驚異と言われてはいますが、驚異の2.95ということで奇跡の町として大きな注目を集めるようになりました。

おととい午後のNHKのテレビ番組でもこの奈義町の取り組みが紹介されておりました。仕事のマッチングにより子育て経験者との触れ合い、シニア層を含めた生きがいくくりにもつながる就労支援サービス、「奈義しごとえん」と言います。など、奈義モデルという取り組みがされており、これを参考にした自治体は全国に現在5つ現れております。奈義町の担当者は、この取り組みが全国に広がっていくことを期待していると言っております。ほかに、新婚家庭が住みたくなるような家をコンセプトに若者向けの町営住宅の整備もしております。

次に2つ目、徳島県で最先端の町、地方創生の聖地と言われている人口4,770人の神山町という町であります。1955年（昭和30年）、この30年に5つの村が合併し、人口2万人の町としてスタート。ここは五城目町と全く同じ状況です。その後は人口が減り続け、今では当時の4分の1、5,000人を切るぐらいまで減っております。同じ頃2万人から現在は8,000人台となった五城目町の数字はまだいいほうであります。ただ、行政が進めていることは五城目の数段先を行ってありまして、住まいの面で、町を未来につなぐプロジェクトとして独自の空き家活用促進事業と集合

住宅の事業が行われております。集合住宅は、地元産木材を建材としてはもちろん、木質バイオマス熱源エネルギーとしても活用しております。地元の森林がその資源なので、使えば使うほど町の森林の手入れが進む。家族、夫婦用ユニットの入居対象は高校生以下の子どもと同居している世帯で、家賃は4万5,000円。集合住宅の建設工事は4年にわたる工期で、地元の工務店の大工さんのスケジュールにも配慮したものとなっております。地元の材料と技術、エネルギーを生かしたその住宅の建設は、五城目でもぜひ参考にしたいものだと私は考えております。五城目小学校新校舎建設、また、今年度取りかかる災害用備蓄倉庫建設に関しても、木造をと願いましたが、残念ながらかなうことはありませんでした。

3つ目、6年間で200人が移住した高知県梶原町。ここは人口3,200人足らずですけれども、この6年間で200人が移住したということで知られております。今から10年前の2013年から取り組んでいる空き家活用促進事業というのがございます。3年前の6月定例会でも取り上げましたが、空き家の持ち主、入居者、町、いずれにとっても有利な空き家活用制度となっております。この梶原町への移住者のインタビューで、移住の一番の決め手は住む家であったと答えた人が圧倒的に多いということでありました。

今紹介したこの3つの町、いずれも鉄道が通っていない山間の町。五城目町と非常に条件は似ております。現在、本町では空き家の情報発信をしておりますが、町の未来のため、若い世代、子育て世代に選んでいただける町を目指して、若者、子育て世代が住んでみたいと感じる住まいの確保ということで、空き家利活用の推進と新たな町営住宅の整備が必要ではないかという提案であります。

町営住宅の建設では、地元の木材と技術を活用、そして木質バイオマス活用によりエネルギーの町内循環も実現できる。先ほど紹介した本町と似た環境の自治体の成功例を参考にした五城目方式で取り組んではどうでしょうか。町の考えをお聞きします。

○議長（石川交三君） 執行部の答弁を求めます。渡邊町長

○町長（渡邊彦兵衛君） 6番荒川議員のご質問にお答えいたします。

当町の町営住宅は、公営住宅法により131戸を整備しております。公営住宅制度は、国の補助により健康で文化的な生活を営むことができる住宅を整備し、原則住宅に困窮する同居親族のある低額所得者に対し、低廉な家賃で賃貸し、生活の安定と社会福祉の増進に寄与することを目的としております。

昨年9月に策定いたしました五城目町町営住宅長寿命化計画では、町営住宅の維持・廃止の検討を進めるとともに、住宅の建て替えを含めた検討を行っておりますが、新たな若者・子育て世代向けの建設計画などの組み入れにつきましては慎重に考慮しているところであり、住環境の整備、子育てを含めた生活環境の整備など、岡山県奈義町、徳島県神山町、高知町梶原町などの他自治体の事例を参考にしながら、将来にわたり住み続けられる空間の創造に努めてまいりたいと存じます。

以上でございます。

○議長（石川交三君） 6番荒川議員

○6番（荒川滋君） ぜひとも今言った3つの町の例を参考にしながら、住んでみたい町五城目と言われるよう努めてくださるようお願いいたします。

（2）番、本町の現在の誕生祝金は、第1子1万円、第2子2万円、第3子が5万円。双子など多胎の場合は1人10万円とございますけども、1人ずつ3人産んだとして、1足す2足す5で8万円の誕生祝金となっております。秋田県内それぞれの自治体では特色のある支援を行っております。誕生祝金が多いからといって出生数の増加に直結してるかといえ、そういうわけではございませんが、本町の額では多いほうではありません。

という文章を書いたのが10日ほど前であります。昨日の町長施政説明の中で、誕生祝金を一律10万円にするというお話を聞く前に書いた文章を今読んでおりますので、よろしくをお願いします。

このたび始まりました妊娠届出時と産後にそれぞれ5万円ずつ支給する出産子育て応援給付金や、給食費の実質無償化という新たな支援もスタートします。これらの実現にあたってはかなり頑張っていたいただいたなというふうにありがたく感じております。

ここで、誕生祝金の更なる増額や、就学までの毎月の給付金や、小学校、中学校、高校などの入学時に祝金を支給するといった支援を検討すべきではないかということが（2）番であります。ばらまいて釣るのかという声もあろうかと思いますが、子育て世帯、世代の誘致合戦の今だからこそ、もう一步踏み込んだ施策をすべきと考えます。一律10万円ということがお話しされましたが、通告に従って改めて伺います。

そしてもう一つ、1歳になった子どもに五城目産木材を使用し、五城目の技術で作られた椅子を贈ってほしいということでもあります。

北海道では、1歳になった子どもに手作りの木製椅子を送る「君の椅子プロジェクト」

が実行されておりました、「生まれてきてありがとう。ようこそ、君の居場所はここにあるよ」というコンセプトで、大学と自治体がコラボして2006年に東川町からスタートし、今は福島県葛尾村を含めた12自治体が参加しております。座面の裏側に名前や生年月日、製造ナンバーが刻印された世界でただ一つの自分だけの椅子であります。これとは別に、秋田県内湯沢市では、3年前から特産の曲げ木家具の椅子を名前入りで新生児に贈っています。それで、私が提案するのは、できれば間伐材でありますけども、五城目の材料と技術で製作の椅子を贈ろうというものでありまして、五城目の木材と技術のPRにもつながると思います。子育て支援拡大と、この椅子寄贈について、町の考えを伺います。

○議長（石川交三君） 渡邊町長

○町長（渡邊彦兵衛君） お答えいたします。

誕生祝金につきましては、第1子1万円、第2子2万円、第3子以降5万円、多胎出産の場合は1子につき10万円の支給を行っておりましたが、令和5年度からは一律10万円の増額に必要な関係予算を計上しております。

就学前までの給付金や各入学時のお祝い金支給につきましては、ゼロ歳から中学校修了までの児童生徒を対象に児童手当の支給と、小学校入学時に1万円の図書カードを交付しております。

国では、異次元の少子化対策として子育て家庭への経済的支援の強化を進める動きがあるようですが、今後の国の動向を注視してまいりたいと存じます。

次に、1歳になった子どもに五城目産木材、間伐材を使用した椅子の贈り物の提案についてお答えを申し上げたいと存じます。

幼少期から木材と触れ合うことにより、木のぬくもりを感じることで町への愛着心が育まれ、町の木工技術の伝承にもつながるものと考えております。また、間伐材の利用は、環境保全やSDGsへの取り組みにつながり、効果は期待できると考えますが、椅子の安全性やデザイン、木材の種類、加工技術など幾つかの条件を満たす必要がありますので、職人や専門家の意見を聞きながら検討してまいりたいと存じます。

以上でございます。

○議長（石川交三君） 6番荒川議員

○6番（荒川滋君） その椅子に関しまして、五城目町は職人の町でありますので、家具、建具に携わっている方がおります。検討するといつて大体のことはそのまま保留という

ことが多いかと思えますけども、ぜひそこは、そういう方々がいる町なので、早急に話を聞いて進めてもらえればというふうに思います。

(3) 町に住む子育て世代の方々からよく聞く話です。晴れてる日は国花苑、あとグリーンランド、雨の日は「はちパル」に遊びに行くと。子どもたちが喜んでのびのびと遊べる場所、ここにはないからということでもあります。最近では井川町の「みなくる」や、屋内大型遊具がある三種町の「みっしゅ」に行くという方もいらっしゃいます。三種町の「みっしゅ」には、子育て支援センター「おひさまひろば」、また、子育て世帯包括支援センターが同居しており、1か所で妊娠・子育ての相談や子どもの交流、保護者同士の交流を図ることができ、子育て中の方にとってはとても心強い場所になっております。

今回は遊び場に限り取り上げます。町外に行かなくても子どもを思う存分安全に遊ばせることができる場所の整備が必要ということで、これも子育て世代に選んでいただきたいという思いを込めて提言しております。

雀館公園を子どもたちが集える場所にとすることは、これまで議会で何度も提言されてきております。椎名議員は、現在川沿いにある遊具の移設を。工藤政彦議員は、アスレチックなど遊具の充実を。私も以前、雀館公園を子どもゾーンにと提言したことがありました。改めて馬場目川沿いの遊具を雀館公園下の駐車場に隣接する芝生の広場に移設し、公園の北側斜面を利用したアトラクションを設置、雪の季節にはソリコースとしても活用する。現在雀館公園では、年次計画が立てられ、整備が進んでおりますが、更なる魅力向上を図り、年中通して世代問わず憩える場所にすべきと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（石川交三君） 渡邊町長

○町長（渡邊彦兵衛君） お答えいたします。

町民の憩いの場として長年親しまれております雀館公園及び雀館運動公園は、五城目小学校が現在地に移転したことにより、教育・文化・運動エリアとしての認知度が高くなってきております。将来にわたり持続的に世代を問わず魅力ある場となるよう、計画的に環境整備に努めながら、町として魅力ある環境づくりに取り組んでいかなければならないことと認識しております。今後、河川側に整備されている遊具や多目的グラウンド、広域体育館など周辺施設が子どもたちにとってのびのびと活動できる魅力ある場となるよう、関係各課とも相談しながら、安全・安心で利活用できる環境づくりを進めて

まいりたいと存じます。

以上でございます。

○議長（石川交三君） 6番荒川議員

○6番（荒川滋君） 川沿いの遊具の移設に関しては、絶対現在よりも利用される回数が増えると思います。ぜひ進めてくださるようお願いします。

ここまでの大きな1番の項目では、選んでもらえる町、残ってもらえる町であるためにさらに踏み込んだ子育て支援をという意味を込めていろいろ提言させていただきました。町が生き残るには子どもを増やすしかなく、子育て支援の充実は町の将来を左右するといっても過言ではないことだと考えております。子どもが増えることによってお年寄りも暮らしやすい町になります。なので私は、子育て対策、少子化対策は、究極の高齢者対策であり、非常に大切な未来への投資だと考えております。ここに住んでもらおうと、もらおうといっても、仕事はどうするんだ、働く場所はあるのかという方もいるかと思えます。もちろん町内に大きな雇用の場ができるに越したことはないのですが、今は車社会で、秋田市まで十分に通勤圏内であります。住まいと仕事、どちらが先か。卵が先か、鶏が先か。まあ結論は出ませんが、五城目を選んでもらえるにはどうしたらいいかということ常を頭に置いておいていただければ幸いです。

続いて大きな2番、町内経済の再生と振興をということであります。

現在ある町内事業所の維持存続のための施策は、企業の誘致とともに欠かせないものであります。そこで、町発注の事業は町内業者を最大限活用していただきたいということであります。一例を言いますと、町功労賞表彰などの記念品で、これは町で作られた製品を与えることはできないかという一例を込めての質問であります。いかがでしょうか。

○議長（石川交三君） 渡邊町長

○町長（渡邊彦兵衛君） お答えいたします。

町発注の事業につきましては、町内経済の振興を図るため、できる限り町内業者に発注するよう努めているところでございます。

町功労者表彰における顕彰盾につきましては、昭和56年に制定いたしました五城目町栄誉賞等表彰規定によった盾であり、表面のメダルの加工など、町内の事業者が製作することのできない盾となっております。この顕彰盾につきましては、令和3年度にある程度の数量をまとめて購入し、在庫として保管しております。これまで、都市交流や

ふるさと五城目会の周年行事などにおいては、地元の職人の手による木工製品を記念品としており、顕彰盾も保管状況を勘案しながら、表彰規定の見直しと合わせて順次町内の職人の手によるものへ切り替えを進めて、そして町内事業所の育成と存続を図るよう努めてまいりたいと存じます。

以上でございます。

○議長（石川交三君） 6番荒川議員

○6番（荒川滋君） どうかよろしくお願いします。

（2）番、経営者の高齢化や後継者不在により廃業に追い込まれる事業所がございます。小売業、製造業、伝統的地場産業など、伝統の灯を消さないよう、地域の賑わい維持のためにも、事業承継において伴走型支援を展開している商工会との更なる連携強化を図るべきではということでもあります。

商工会は、地域内商工業者の経営の改善に関する相談と指導、地域内経済振興と社会一般の福祉の増進に資することを目的に、経済産業大臣の認可を受けての設立できる特別認可法人であります。地域社会に必要とされる商工業者を支える存在で、非常に大きな意義を持っております。この地域では、皆さんご存じのように、18年前、3つの商工会が合併して現在の湖東3町商工会となっております。18年前の合併当時、682であった会員数は現在433。249件、36.5%の減少となっております。地域経済の振興のために欠かすことのできない商工会の組織力強化、つまり会員の増加を目指したいところであります。

お隣八郎瀉町では、町が行う店舗改修補助金や商店の後継・起業者支援の補助金の申し込みの際に、また井川町では、今年度新規で行っている創業等チャレンジ支援事業補助金など、これらの申請にあたりまして湖東3町商工会員であることを必須条件としております。両町のように本町でも、補助金の申請にあたって商工会員であることが必須というルールを設けることはできないでしょうか。町の考えをお聞きします。

○議長（石川交三君） 渡邊町長

○町長（渡邊彦兵衛君） お答えいたします。

湖東3町商工会におきましては、平成28年度から中小企業庁が所管する伴走型小規模事業者支援推進事業を活用し、各種研修や販路拡大イベントへの参加など様々な事業を展開し、事業継続及び継承、販路拡大、経営改善など、会員事業者の経営に関する支援を行っていることを伺っております。町内経済の発展は、町民の雇用に結びつくことと



もに税収の増加にもつながることから、引き続き湖東3町商工会との連携を図るとともに、更なる強化を図ってまいりたいと存じます。また、現在町では、起業等支援事業や起業家事業拡充支援事業、ものづくり支援事業、事業所改修事業を展開し、町内に起業する方や町内事業者の販路拡大、事業継続及び継承を支援しているところでございます。

申請要件を商工会員とすることにつきましては、新年度以降の補助申請者に対し、商工会員の経営面におけるメリットを伝え、更なる加入を促してまいりたいと存じます。

以上でございます。

○議長（石川交三君） 6番荒川議員

○6番（荒川滋君） 今の最初のほうで一番聞きたかったのは、後継者不足などにより廃業をして余儀なくされている事業所がありますと。先ほど椎名議員も言いましたけども、例えばお菓子屋さん、後継者がいないためシャッターが閉まったままになっていると。そういうところに対して、町はどのようにこのケアしているのかというところを聞きたかったんです。そこで、普段から伴走型支援をしてる商工会と連携すべきではということを知りたいのですが、その辺は答弁はできるでしょうか。町で、後継者不足で閉鎖してしまった事業所に対して、何らかのアドバイス、相談等は受けているのかということを知りたいのですが。

○議長（石川交三君） 小玉商工振興課長

○商工振興課長（小玉洋史君） 6番荒川議員にお答えします。

事業継承につきましては、商工振興課においては事業所改修事業、こういった事業を展開して事業の継続に努めていただいているところであります。

以上であります。

○議長（石川交三君） 6番荒川議員

○6番（荒川滋君） 後継者不在により商いを続けることができなくなったところへ、このケアしていただくということが私の希望であります。

時間がありませんので進んでいきます。

（3）森林環境譲与税制度スタートから5年目を迎え、本町への譲与額は、令和5年度に1億5,000万円を超えることとなります。森林経営管理制度による経営管理権の集積計画においては、大変なご苦勞で進められてきております。これまでの4年間で積み立てられた基金の一部を活用し、森林の持つ多面的な機能と植林、間伐、主伐、再び植林という森林サイクルの重要性、いわゆる森林は地球の未来のためにとっても重要な

んだという啓蒙事業をすべきではないでしょうか。森林組合の合併を林業の町復活の契機にというふうに思いますが、町の考えをお聞きします。

○議長（石川交三君） 渡邊町長

○町長（渡邊彦兵衛君） お答えいたします。

町では、秋田県水と緑の森づくり税事業などの補助事業も活用しながら、苗木の配布事業やイベントでの組み木コースターづくり、秋田スギ箸づくり体験などの木育推進事業、小学生を対象にした夏休み子ども体験塾の中で森林資料館において森林の働きについての環境学習を行うなど、森林が持つ公益的機能の啓発に取り組んでおります。今後も森林環境譲与税を含めた財源を活用しながら、啓発事業の実施に努めてまいります。

以上でございます。

○議長（石川交三君） 6番荒川議員

○6番（荒川滋君） できれば実際にその林の中に行ってもらって、そこで林を見上げながら啓蒙活動ができるような事業をひとつ考えていただきたいものだなというふうに思います。

今年度から令和8年度までの5か年の総合発展計画の前期計画、基本目標2「地域に賑わいと活力を生む産業づくり」の農林業というところで、町民に期待する役割、協働による取り組みとして「森林の果たす役割を理解し、保全に努めましょう」とうたわれております。ぜひとも実行に移していただきたいと思います。

（4）2020年10月、菅前首相が行った2050年カーボンニュートラルの実現宣言を受けて、脱炭素社会に向け、2050年二酸化炭素実質排出量ゼロに取り組む自治体が増えてきております。1月末現在で全国で831自治体、秋田県内では、県、それから大館市、鹿角市、大潟村、由利本荘市、大仙市、そして湯沢市、この7自治体が表明しております。

昨年9月の議会全員協議会で、脱炭素社会実現に向けた取り組みについての中で、今後表明をすると話されております。町では昨年9月に環境基本条例を制定しましたが、さらに踏み込んだ目標、この2050年までのゼロカーボン宣言表明に向けて今後どのように予定されているでしょうか、お聞きします。

○議長（石川交三君） 渡邊町長

○町長（渡邊彦兵衛君） お答えいたします。

町では本年度、脱炭素化に向けた基盤づくり事業により、2050年に目指すビジョ

ンやシナリオ案の策定を進めております。また、令和5年度には、再生可能エネルギーの導入及び脱炭素化に向け、実行可能性や採算性など事業化の可能性を調査する予定でございます。調査の状況を注視し、令和5年度中のゼロカーボン宣言表明を目指してまいりたいと存じます。

以上でございます。

○議長（石川交三君） 6番荒川議員

○6番（荒川滋君） ありがとうございます。

大きな3番に入ってまいります。町の魅力発信と観光の取り組み強化、併せて健康寿命の延伸で町のイメージアップをということであります。

先ほど松浦議員もおっしゃいましたが、昨年12月、人気番組の「秘密のケンミンSHOW極」で秋田県民が家庭で食べる定番鍋、新米をつぶして丸めただまこの魅力として本町が紹介されました。また、4月3日と10日には、月曜夜のNHKの人気番組、タベもやっておりますが、その番組で当町が取り上げられる予定になっておりますが、そこでもだまこが紹介されるのではないかと私は希望を込めて考えております。ほかに秋田のローカル番組でも何度も紹介されております、我らの郷土料理だまこ鍋は、各家庭はもちろんのこと、町内での取り扱い店が10軒を超える、まさに五城目のソウルフードであります。さらに広めて「だまこで町おこし」を図るためにも、民間を巻き込んだ仕掛けを町が企画して進めることが必要と考えますが、いかがでしょうか。

○議長（石川交三君） 渡邊町長

○町長（渡邊彦兵衛君） お答えいたします。

今年度はメディアにも取り上げられることの多かっただまこ鍋は、どこの家庭でも気軽に食べられている郷土料理であります。町内の小・中学校では給食の献立に採用され、県立五城目高等学校におきましては調理実習に取り上げられるなど、だまこ鍋は町の食生活に密着しております。現在はコロナ感染拡大から落ち着きつつあり、町のイベントも徐々に再開してきているために、今回のメディアでの紹介を追い風としてイベントでの提供機会を増やせるよう、各団体をバックアップしてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（石川交三君） 6番荒川議員

○6番（荒川滋君） 大館市比内地区では比内鶏まつり、大館市ではきりたんぼまつり、それらのイメージを頭の中に描きながら今提言しております。どうか、だまこで町おこ

し実現できるよう、よろしくお願ひしたいと思ひます。

(2) 町の顔である五城目朝市は、1495年の開始から再来年で530年目の節目を迎えます。2014年10月、国民文化祭に合わせて本町で全国朝市サミットが開催されました。あの時は、秋のきのこまつり、それからG級グルメまつり、高性寺ジャズインプレッションなども同時開催ということで、それはもう大変な賑わいとなったことが思い出されます。また、テーマを「秋田の宝 五城目の朝市」とした浅利香津代さんの基調講演や「魅力ある朝市づくり」をテーマとしたシンポジウムも行われ、大変有意義な開催となりました。その翌年の2015年、520年目のレボリューションとして日曜臨時朝市を実験的に開催。それを経て、今となっては朝市に欠かすことができなくなっている朝市plus+が2016年4月からスタートしております。五城目朝市わくわく盛り上げ隊の方々のご尽力には心から感謝申し上げます。

朝プラと年3回の朝市まつり、そして商工会主催の市神祭、これらは大盛況となるんですけども、肝心の定期市は、出店者、来場者数ともに減少が続き、このままでは5年後、10年後どうなるかなという思いは、ここにいらっしゃる方全員の共通認識だと思います。斎藤晋議員も言ったとおりであります。

530年目を節目となる再来年に再び全国朝市サミットを招致することによって、朝市再興の機運を高めようというふうに考えております。また、それまでの間、このたび取得する予定の朝市大駐車場の舗装と、朝市通り会場までの通路の案内看板設置など、周辺の環境整備を提言します。朝市サミットと駐車場の環境整備、この2点について町の考えを伺います。

○議長（石川交三君） 渡邊町長

○町長（渡邊彦兵衛君） お答えいたします。

明応4年、西暦1495年に馬場目城下町村に地頭・安東季宗が市神を祀らせ、市を開いたとされてから、令和6年には530年目を迎えることとなります。

全国朝市サミットにつきましては、コロナ禍の影響もあり、令和2年度以降開催がなかったところでありますが、530年目を迎える令和6年、あるいは530周年にあたる令和7年には、大きな節目となる年でもあることから全国朝市サミットを当町に迎えたい旨、朝市振興委員会で協議中であると伺っております。

また、朝市大駐車場を含む周辺整備につきましては、3番松浦議員への答弁と重なりますが、当該土地の取得費用を令和5年度当初予算に計上したところであり、まずは取

得に向けて所有者との用地交渉を円滑に進めてまいりたいと考えているところであり、当該土地の舗装や周辺整備につきましては、取得後の課題と捉えているところでございます。

以上でございます。

○議長（石川交三君） 6番荒川議員

○6番（荒川滋君） 取得後の課題ということで、取得後、まさかあの砂利のままということは考えられませんので、ぜひここ1年、2年かけて前に進むよう、よろしく願います。

（3）です。皆さんクアオルト健康ウォーキングというのをご存じでしょうか。クアオルトとは、ドイツ語で療養地という意味になります。豊かな自然や地域資源を活用し、のんびり歩くことにより、地域住民や来訪者の健康増進を図ろうというもので、お隣三種町では、三種町クアオルト研究会という住民団体が10年前から取り組んでおりまして、長く健康で人生を楽しむために、頑張らない、無理しない、でも心身によい効果というモットーで行われております。三種町には3つの認定コースがありまして、現在は会員が130人に増え、地域の方々の健康増進に大きく貢献しております。この活動に対し、三種町では民間である研究会と連携し、コースの維持、各種事業を展開しております。

私がこのクアオルトを本町で導入した際想定するコースは、野鳥の森、それから雀館公園、道の駅の自然観察園、そして森山一帯という、あくまでも私個人の想定であります。健康と観光を同時に強化できるクアオルト健康ウォーキング導入を提言します。いかがでしょうか。

○議長（石川交三君） 渡邊町長

○町長（渡邊彦兵衛君） お答えいたします。

気候性地形療養クアオルトウォーキングとして、ウォーキングをはじめ、食事や温泉療養など健康づくりに取り組んでいる自治体としては、近隣では三種町で実施しております。

五城目町は自然豊かな町として広く親まれており、自然を利用した健康づくりに適した環境にあると認識しております。また、観光も視野に入れることにより、様々な施設などの接続を図り、より活気あふれる町へとつないでいくと考えられることから、関係課と連携し、町の健康増進や観光振興に関わる団体からも意見を伺う必要があると考え

ております。そのため、クアオルトウォーキングを実施している自治体を含む、関連するその情報を入手するなどの調査・研究を進めてまいります。

以上でございます。

○議長（石川交三君） 6番荒川議員

○6番（荒川滋君） このクアオルト健康ウォーキングは、どちらかといえば中高年の参加者が多い傾向にあるようです。先ほどから若者世代と子育て世代向けの施策展開の提言をしておりますが、ここでは中高年の方々の健康増進と交流の場につなげるためにも導入をとということで提案であります。ぜひ前向きに考えて進めていただきたいと思います。

先ほど私が述べました個人的な想定コースの一つになっている森山、あの平坦な道をのんびり登り、山の上からの眺望で心身ともにリフレッシュでき、まさに健康ウォーキングにふさわしいコースだと私は感じております。ところが、森山管理道路は皆さんご存じのように現在通行止め、そして立ち入り禁止となっております。この管理道路にかわる新規ルートの開拓を、前回12月の一般質問で答弁されました。新規ルートの開拓を考えていると、答弁されましたが、それはどの課で進めた結果だったのか。森林公園管理の農林振興課でしょうか。道路なので建設課でしょうか。観光に関わるので商工振興課でしょうか。関係人口拡大ツアーでも森山も活用しているまちづくり課でしょうか。身近な里山として町民の健康増進に寄与するので健康福祉課でしょうか。町の財産に関わることなので総務課でしょうか。

そして前回の答弁で、管理道路の移管を受け町が管理するとなれば膨大な費用がかかるということですが、その金額は幾らか。新規ルート開拓の場合は幾らかかるのかということですが、このことに関しましては昨日の町長施政説明で、その管理道路の整備にあたりましては、最も安く済む工法でも1億5,000万かかるという話をされました。通告しているのもう改めてご質問します。

そしてもう一点、新規ルート開拓に対しまして、出羽山岳会、そして、この通告書には誤って山遊会、山で遊ぶ会と記入してしまいましたが、ここ、正解が森で遊ぶ会、森遊会でありますので訂正願います。その森遊会、ほかにもっと森山をもりあげ隊などの森山愛好者の声はどういったものであったか。

どこの課か、かかる金額は、そして愛好者の声は、この3点をお聞きします。

○議長（石川交三君） 渡邊町長

○町長（渡邊彦兵衛君） お答えいたします。

最初に新規ルートを開拓することを進めたのはどの部署かということですが、これは農林振興課であります。

また、森山管理道路の移管を受け整備するとなれば膨大な費用がかかるということですが、幾らかということですが、まあこれは先ほどもお話しがありましたが、施政説明にも申し上げましたが、森山管理道路の確たるその安全面を確保するために落石危険箇所についての事故防止のための改修工事を施工する場合、工種として吹き付け砕工、モルタル吹き付け工、落石防止網設置がありますが、最も安価な落石防止網設置を選択し、さらに転落の恐れがある危険箇所へガードレールを設置することとした場合、概算として約1億5,000万円超の費用がかかり、同等の維持管理費もかかることが予想されます。

新規ルート開拓の場合は幾らか、また、新規ルート開拓に対し、出羽山岳会、森遊会、もっと森山をもりあげ隊などの愛好者の声はどうであったかということにつきましては、新規ルートの整備にかかる概算費用は現時点では出てなく、新たに調査を行う段階でありまして、登山愛好者の声や特段伺っておりません。

以上でございます。

○議長（石川交三君） 6番荒川議員

○6番（荒川滋君） 森山愛好者の方々、森山のこと知り尽くしてまして、どこが危険でどこが安全かというのを全て頭の中に入っております。その方々が新規ルート、前回この図で示した新規ルート、あのルートはこれはないよというふうにみんな口を揃えています。この新規ルート開拓というのをどの課で進めたのかということ聞いて農林振興課という答えがあったわけですが、私、オール五城目という答えがくると思ってたんですね。こう全ての課で協議した結果、この答えが出たということでありましたが、まあ農林振興課であったと。

これから開拓に向けて調査しようという新規ルートは、これは歩行者専用のルートですか、それとも車も通れますか、お聞きします。

○議長（石川交三君） 答弁者。大石農林振興課長

○農林振興課長（大石芳勝君） 6番荒川議員にお答えします。

歩行者のみの通行を考えております。

以上でございます。

○議長（石川交三君） 6番荒川議員

○6番（荒川滋君） はい、分かりました。安全第一、そして莫大、膨大な費用がかかるということで、歩いて登ることができない人はシャットアウトということによろしいでしょうか。

○議長（石川交三君） 答弁者。大石農林振興課長

○農林振興課長（大石芳勝君） 6番荒川議員にお答えいたします。

先ほど歩行者のみを考えていると答弁しましたが、ただいまのご質問につきましては、現在は今後検討していくという状況でございます。

以上でございます。

○議長（石川交三君） 6番荒川議員

○6番（荒川滋君） 後でまた詳しく聞きます。

現在、管理道路を歩いて登っている森山の登山者に対しまして、ここは危険だから町が推奨する新規ルートを歩きなさい、または、その登山者の中に一定程度いらっしゃる高齢の女性に対して、この道は危険だから高校生と同じ岡本ルートを登りなさいという指導ができるでしょうか。その指導をもしするとなれば、担当する課はどこになるでしょうか。これは、この何か一般良識に関わる問題なのでお聞きしています。よろしくをお願いします。

○議長（石川交三君） 武田副町長

○副町長（武田和栄君） お答え申し上げます。

いずれそれをも含めて、現在調査に入ろうというふうな関係でございます。

○議長（石川交三君） 6番荒川議員

○6番（荒川滋君） 絶対その愛好者の方々の声を聞いたほうがいいです。聞いた上で進めてください。

なぜここまでこだわるかといいますと、町が提案しようとしてる新規ルートは、あまりにも厳しすぎるからです。だから森山を知り尽くした人たちの声はどうだったのかと、あえて聞いています。人々の思いとかけ離れたことを進めようとしているから何度も聞いています。この一連のこの決定までの流れの中で、この管理道路の閉鎖と新規ルート開拓に異論を唱える町職員はいなかったんでしょうか、お聞きします。

○議長（石川交三君） 渡邊町長

○町長（渡邊彦兵衛君） お答え申し上げます。



異論はないかということですが、この件につきましては、やはり私ども森山チーム、職員で作るそのチームを結成いたしまして、そして昨年からだと思うんですけども、その会議を開いておりまして、そしてどのルートがいいのか、そしてまたこれが一番今現時点では適してるんじゃないかというこの結論に至って、現在に至っておるところでございます。

以上でございます。

○議長（石川交三君） 6番荒川議員

○6番（荒川滋君） 最後の（5）を取り下げてもいいでしょうか。

○議長（石川交三君） はい、よろしいです。

○6番（荒川滋君） 1億5,000万という数字が出たわけですけども、多額の費用がかかるために、これは例えばガバメントクラウドファンディングを活用しようとか、1億5,000万は無理だから年次計画を立てて少しでも進めていきませんかというふうな検討や協議はされましたか、出ましたか、そういうのは。

○議長（石川交三君） 時間が迫っておりますので、執行者の答弁を求めます。渡邊町長

○町長（渡邊彦兵衛君） お答え申し上げます。

この工事費用が云々、今の議員がおっしゃったように、これにはですね、この管理道は町に移管しないということの前提のもとで、そういう、じゃあ幾らぐらいかかるということの膨大かかると。こういうその工事費が出ました。ただ、根底には、このあまりにも工事費がかかる。じゃあ、この工事費幾らかかるということをまず算出していただきましたが、根底には移管はしないということを申し上げておきます。

○議長（石川交三君） 6番荒川議員

○6番（荒川滋君） 総合発展計画の将来ビジョンとしてうたわれている、「ひとが輝き、まちが輝き、そして未来が輝く」、これが実現できるよう、町民のほうを向いて、人々の輝きを消さないようなそういう町政であってほしいと思います。

すいません、今回も時間過ぎてしまいまして。以上で終わります。

○議長（石川交三君） 6番荒川滋議員の一般質問は終了いたしました。

以上で本日の会議は全部終了いたしました。

本日は、これで散会いたします。ご苦勞様でした。

---

午後 4時47分 散会